

自由応募分科会 5「キリスト教と中国政治」

報告 1

慶應義塾大学非常勤講師

上野 正弥

「2000年代中国における基督教管理制度の再構築」

The Chinese Government's Policy toward Protestant Churches in the 2000s: The Process of Rebuilding the Institution for Control

中国政府は従来、中国基督教三自愛国運動委員会（三自委員会）という基督教界の大衆団体を通じて教会や信徒を管理してきた。しかし、2000年代以降に三自委員会に属さない家庭教会が数的にも組織的にも発展してくると、従来の基督教管理制度は機能不全が顕著になっていった。本報告では、まず家庭教会発展の要因を概観したうえで、共産党中央が従来の基督教管理制度に代えてどのような管理のしくみを構築しているのかを明らかにする。そして、基督教政策に関係する諸アクターが党中央の方針に対してどのような反応を示しているのかについて観察し、各アクター間の相互関係を分析する。

1999年の法輪功の中南海包囲事件以降、宗教を背景とした集団騒擾事件（群体性事件）の防止が政策課題となると、共産党中央は基層（主に県級以下）での管理を強化する方針を打ち出した。具体的には、県・郷・村の三級宗教事務管理ネットワークの構築や郷・村二級の宗教工作責任制が提起され、基層に宗教工作担当幹部を配置することが目指された。また、教会や信徒に対する思想政治工作重視の方針も改めて提起された。しかしながら、基督教政策の現場ではこれらの方針は十分に執行されていない。本報告では、韓国教会の進出が多い地域でさえも三級宗教事務管理ネットワーク等を構築できていない事例を取り上げ、基督教政策をめぐる中央・地方間の齟齬を分析する。また、思想政治工作に対する教会の反応も検討し、新たに構築されつつある基督教管理制度が困難に直面していることを実証する。最後に以上の分析を通じて、宗教領域における党・政府の統治の強さや弱さを、他の領域におけるそれと比較しながら検討する。